

さざれ石の巖となりて

～第一回全国クラブミーティング@大野～

SATA 日口裕二

名古屋からの帰りの機内。昨夜は真夜中 1:00 過ぎまで宿の大部屋に車座になって議論を交わし眠いはずなのに、このように目が冴え、すぐに彼方に過ぎ去ろうとする記憶の断片、すなわちこの 2 日間の議論の内容を懸命に思い起こそうとする自分がある。この妙な使命感はいったいどこから湧いてくるのだろうか…。

『志』の集まり

去る 11 月 29 日・30 日の両日、記念すべき第一回目となる全国クラブミーティングが大野グライダークラブ幹事の下、岐阜県大野町グリーンホテル小松家にて開催された。北は北海道、南は山口県から 13 のクラブと JSA の代表者計 23 名が一堂に会し、各クラブの共通の課題の解決や滑空界の発展に向けて何をすべきかを話し合うのが目的だった。

平成 26 年度 JSA 総会（6 月 20 日開催）に引き続いて行われた、有志のクラブ代表者ミーティングでは十分な議論を尽くすことができず、それぞれの胸の内にもっと情報交換したい、議論を尽くしたいという想いが残ってしまった（JSA インフォメーション 2014 No.304 参照）。とはいえ、この今は小さな人の輪をこのまま消滅させることなく、少しずつでも大きな輪に

し、協働で自分たちの世界を変えていく動きに結び付けていく必要があった…速やかな行動が求められた。9 月には JSA の登録メールを通じて、全国のグライダークラブにクラブミーティング開催の呼びかけを行った。そして、この日を迎えたのである。

クラブミーティング序章

クラブミーティングでは、29 日午後と 30 日午前がミーティングの時間に割り当てられ、夜には懇親会が計画された。互いを知り合い、深い議論をするための時間はありそうでない。先の代表クラブミーティングで時間不足により十分な議論ができなかったことを踏まえ、各クラブからは様式を定めた資料を予め提出するようお願いをした。様式には、1) クラブの基本情報、2) クラブや活動の特徴、3) 他のクラブの参考となる活動、4) クラブの抱える課題、そして 5) 滑空界への提案とそれを実現する方策、などを盛り込んだ。当日の議論の中心となった 5) についてのリストが表 1 だ。

ミーティングは、開会宣言の後、JSA の挨拶、議長として今回のミーティングの提唱者である日口が選出された。議事に入るにあたって、議長から、今回のミーティングはグライダー界が抱える課題の解決を一步でも進めることが目的であること、

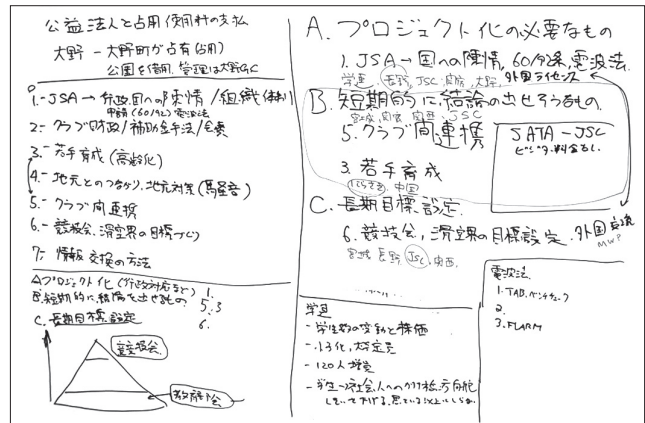


表 1. 第一回全国クラブミーティング 各クラブの提案内容

2014.11.27 現在

団体名	略称 (呼称)	提案内容
(公社) 日本グライダークラブ	JSC	①国内クラブの体協に参加出来る様な組織化について ②国内クラブの会員乗り入れの方策について ③各クラブで歩調を合わせたユース支援の方策について ④滑空界の組織としての行政への対応 ・空域 ・Power Flarm
(公財) 日本学生航空連盟	JSAL	①ジュニア世界選手権への選手派遣について ②スカイスポーツフェスタの開催支援について ③滑空人口増加策について ・学連 OB の各地クラブへの勧誘活動 ・防衛大学校航空専修学生教官への勧誘活動
(一社) 静岡県航空協会		①グライダー人口増に向けての取り組み ②国や航空業界に対し、若者が手軽に訓練できる基金や補助金の制度の創設の提案 ③航空部出身者が気軽に地元のクラブで飛行できる素地づくり
中部日本航空連盟	CJAA (岐阜)	①グライダーの魅力を一一般に向け発信する ②グライダー操縦能力の重要性のアピール ③もっと楽に、もっと楽しくグライダーができないか？ ④相互に訪れ、体験などできる雰囲気づくり
	(愛知)	①近隣滑空場との連携
(公社) 長野グライダークラブ	NGC	①日本選手権の開催計画について
NPO 韮崎市航空協会		①海外グライディングセンターとの連携 ②ノウハウを共有する仕組みづくり ③滑空界の人と人をマッチングさせる仕組みづくり
(公社) 宮城県航空協会		①日本選手権の開催について ②ユース育成について ③行政に対する要望・陳述を行う仕組みづくりについて
関西エアロスポーツクラブ	KASC	①クラブ運営上の諸問題について ②ユース支援について ・フランス/サントーバンとの連携
NPO 関宿滑空場		①グライダー市民権の UP ・行政に対する要望のとりまとめ、働き掛け ②グライダーの魅力の発信する(啓蒙活動) ③ JSA 会員のクラブ間相互乗り入れ
(公社) 滝川スカイスポーツ振興協会	SATA	①自分たちのことは自分たちの手で行う仕組みづくりについて ②日本のグライダーパイロットが目指すべき方向性の示唆
大野グライダークラブ	OGC	①保険の管理 ②監督官署との交渉窓口 ③グライダー活動人口の減少と高齢化対策
中国航空協会	CAS	①クラブ員の不足、高齢化対策
(株) 日本モーターグライダークラブ (当日、欠席)	JMGC	①組織として行政に意見申し入れ ・輸入航空ガソリンに航空燃料税の適用 ・自動車用ガソリンの使用

そのために今回のミーティングが終了した時点でその目的に向けて何かを決めるということ意識しながら発言・討議することをお願いした。参加者の簡単な自己紹介ののち、早速議事に移った。

議事は、中心議題である各クラブからの提案内容の説明(各クラブ5分)から始まった。表1を見てもわかる通り、各クラブが提案した内容には重複するところが多く、それだけ各クラブが自分たちの世界に対し望んでいることは似たようなことであることは容易に想像できた。

各クラブの説明が一通り終わったところで、まずは提案内容に関する質疑と提案内容の解決の道筋についての自由討議が促された。まずは、提案された課題を整理統合して、概ね7つのテーマに分類し、さらに討議を深化させようということになった。

- 【1】 JSA に希望すること (組織としての JSA だからこそ行えること) →行政との交渉、陳情など。
- 【2】 金銭的なこと → クラブ財政、補助金制度の活用、会費問題。
- 【3】 若手育成
- 【4】 地元とのつながり、地元対策 (騒音等)
- 【5】 クラブ間の連携
- 【6】 滑空界の目標作り (競技会、選手権開催等)
- 【7】 情報交換の方法

初日ということもあったのだろうか、議論はどちらかという方向性が定まらず、問題点(課題)は語られるものの、解決の方向性は依然掴めないまま時間だけが過ぎていく感じだった。議長として議論をまとめきれない力量不足を感じつつ、敢えなく時間切れとなってしまった…。



揖斐川丘苑

そこは、今回の幹事クラブである大野グライダークラブ御用達の懇親会会場であり、揖斐川の渓流沿いにある、風情のある本格和風旅館だった。大広間で小さな囲炉裏を囲む形で4つの小グループに分かれ、それぞれの囲炉裏端にあまごの姿焼き…生きたまま串に刺さった彼らは炭火が熱いらしく、びくびくと身を振らせていた…が並んだ。続く牡丹鍋では、装飾を施した大皿を前に美人の女将さんが、この装飾の一つ一つがこの地域の山河に擬えていることを説明。その間、約5分。我々は目の前のお酒に口をつけることなく、その口上に完全に聞き惚れていた。実に滑らかな口上であったが、後にさらにこの美人女将の知性を知ることになるとはこの時には夢にも思わなかった…。

酒が入るほどに各囲炉裏端はそれぞれのクラブの代表者同士が語り合う場となり、銘々が活発にそれぞれのクラブのこと、グライダーに関する情報交換を行った…活発になったのは単に、酔いが回ったからという話もあるが。

十分に雰囲気や和んだところで、各クラブの紹介に移った。資料を見た時もそうだったが、他のクラブのことは知っていそうで知らないことが多く、話の内容も聴いていてとても新鮮だった。悩みを抱えるだけでなく、それぞれのクラブで工夫を凝らし、楽しくグライダー活動を行っている様子が手に取るようにわかった。

ようやく一巡したところで、私の方からこのようなミーティングを今後も定期的に開催した方がいいかを問うてみた。結果、満場一致で今後も開催したい、とのことであった。6月の代表者ミーティングの時から、全国各クラブの持ち回りで行おうということが叫ばれていたが、クラブを代表する人たちはえてして自分のクラブ以外の場所を訪れる機会がほとんどなく、このような声が出るのも深く頷ける。次回ミーティングをどこで行

うかも重要なテーマだったが、こちらは長野グライダー協会が即座に手を挙げてくれた。さらに、開催頻度も年2回程度を目処とすることで決まった。

何時に終了したのか時計を確認することもなく、楽しく気持ちいい時間が流れていた。

参加者のうち、半数弱の9名はこの旅館にそのまま宿泊することとなっていた。大部屋で雑魚寝、若い頃の宿舎を彷彿とさせた。部屋に入ると誰からともなく円卓に集まり、早速グライダー談義が始まった。

と、先ほどの美人女将が入浴時間や朝食の案内のため、部屋に入ってきた。宴会場で我々が実に楽しそうに語り合っているのを見て、女将も何かを感じ取ったような雰囲気だった。帰り際にふと、『さざれ石』について話をしてもよろしいですか、と切り出してきた。聴く側がすでに酔っぱらい集団と化しているのが惜しいくらいの見事な口上で、『さざれ石』とはどのような石なのか、そしてこの地方にまつわる『さざれ石』の歴史について滔々と語り出した。さざれ石は細石とも書き細かい礫の集合体であること、君が代の原歌詞（我が君は 千代に八千代に さざれ石の 巖となりて 苔のむすまで）が遠く古今和歌集に詠み込まれた歌であること、この歌を詠んだ藤原朝臣石位左衛門は身分が低く詠み人知らずとされているがこの歌で位を賜ったこと、その歌詞の意味はこの地方に落ち延びた藤原家の結束と繁栄を意味していること、などが遠い記憶の中に残っていた。我々グライダーパイロットもさざれ石のように一人一人のグライダーパイロット、一つ一つのクラブが固く結束し、巖となって事に当たりなさい、と美人女将から言われたような気がしたのは私



だけであつたらうか…いや、女将さんから直接そう言われたのかもしれない、あるいは女将のまっすぐに私を見つめる眼がそう感じさせたのかもしれないが、少なくとも私の記憶の中にはもう真実は残っていない…。

女将が引き上げた後も我々のグライダー談義はいつ尽きるともなく、心ゆくまで仲間との限られた時間を楽しんだのだった。

翌朝、私にしては珍しく少し早起きをして、離れにある朝風呂、そして溪流沿いに紅葉が広がる庭園を楽しんだ。

議論の果てに

さて、二日目である。一日目の7つのテーマに関連する各論について、まずは自由討議を行った。近年の学生グライダーの活動状況や Flarm 導入の場合の電波法の壁、ダイニーマ索によるウィンチオペレーションの要領、JIM: 日本独自のインストラクターマニュアルプロジェクトの進捗状況、TOTO などから助成金をもらう場合の問題点など多岐にわたる分野の情報交換(事例紹介)や議論を行った。議論が白熱する中、多くの課題に対し解決への道筋をつけていくためにはまずは自分たち自身が行動しないと解決が図れないということで、急速に認識が一致していった。明らかに昨日までの議論では見られなかった結末の表れだった。課題解決のためにはプロジェクト化してそれぞれのクラブで分担して作業にあたること、7つのテーマをさらに3つの大テーマに集約してそれぞれの担当クラブ及びリーダーを決め作業を行うことなどが次々と決まっていた。作業スケジュールとしては、1月末までに各チームで作業した内容を一旦 JSA に報告、JSA は進捗状況を把握したうえで作業の方向性を指示し、各チームはさらに3月末までにその指示に従い課題解決に向けての提案を固め、5~6月に開催予定の第二回全国クラブミーティングでその内容について討議を行うこととなった。さらに、次回開催に向けてそれぞれのネットワークを通じて全国の多くのクラブを誘い込むことが確認された。

〈プロジェクト化の必要なテーマと担当クラブ〉

全体統括：JSA 取りまとめ(滝川)

1. 国への陳情/申請等の取りまとめ(航空法、電波法)/
外国ライセンス

リーダー：長野 学連、JSC、関宿、大野

2. 短期的に結論の出せそうなもの

①クラブ間連携

②若手育成

リーダー：葦崎 中国、宮城、関宿、関西、JSC

3. 長期目標設定

①競技会

②滑空界の目標

③国際交流

リーダー：JSC 宮城、長野、関西

その後お邪魔した大野滑空場では、突然の来訪者である我々を温かく迎え入れ、体験飛行をさせていただいた。大野のクラブ員の皆様にはこの場をお借りして深く感謝申し上げたい。

有意義な時間を過ごすことができた、そして日本のグライダー界が少し動き始めたことを予感させる出来事だったと、多くのクラブの代表者が素直に感じたのではないと思う。でも、行動の真価が問われるのはむしろこれからだ。さらに多くのクラブを巻き込み、日本のグライダー界に泰然と横たわっているいくつかの課題を解決し、自分たちにとって理想の世界を築き上げていくのは間違いなく自分たちなのだ。誰もが汗をかかないと求める世界は決してやって来ない…。

それでも何かこれからの遠い道りに僅かながら光明を見出せそうな気がしたのは私だけであろうか。

仲間が集うことの大切さ、素晴らしさを感じることでできた、貴重な2日間であった。

『さざれ石』のように、そして『長野で会いましょう!』

- ・良好な気象条件&広いランウェイ - 各種研修会、指定養成コース、国内競技会開催
- ・板倉 - 小山ライン(20km)をベースに、初心者から上級者までレベルに応じた無理のないXCプラン作りが可能
- ・板倉フライトサービス130.675MHz

入会金	80,000円	(24,000円の分割払いも可)
年会費	84,000円	
ゲスト料金	1日3,000円	
曳航料金	feet+3,000円	(例 3,000ft = 6,000円)
グライダー搭乗料金	1分 200円	



入会、ゲスト、学生さんの合宿など大歓迎 - お気軽にお問い合わせください

東京事務所 Phone/Fax 03-3591-7728 (平日)

板倉滑空場 Phone/Fax 0276-77-0830 (土日祭日)

ホームページ www.glider.jp

Email shinbashi-office@glider.jp

公益社団法人 日本グライダークラブ 板倉滑空場